

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1998年3月31日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

26号

この春、0歳から就学まで6年間保育園生活を送った子どもを含めて18名が、区内8校、他区1校、他県1校へと巣立っていきました。卒園の日、子どもたちは歌い、自分で製作した荒馬の衣装を着て踊り、お父さん、お母さん、ご家族の方、そして職員のはげましと拍手をあびて、あふれる命の輝きを見せてくれました。“元気に明るく育ってくれてほんとうによかった”と父母と職員は喜びを共にし、このまま素直にすくすくと育てほしいと心から思いました。その一方で、大人たちは思い描いたに違いありません。保育園の向こうで起こっているさまざまな事件を、何かにムカツキ、現実をコントロールできなくなりキレてしまう子どもたちのことを、そして、わが子は大丈夫かと。21世紀に向かう日本は今、高度経済成長のツケがまわって不況のどん底です。政・財界の呆れるばかりの無法ぶり。文部大臣の「ナイフは持たないようにしましょう」の呼びかけは通りいっぺんで、子どもたちの心に響くものではありません。もっともっと子どもたちの心にしっかり向き合い、共感できる子育てが必要ではないかと思つづく思います。(H・N)



3月 卒園式



保育園最後のこの日、卒園する5歳児の子どもたちは、一番の笑顔と一番の元気を見せてくれます。6年間の集大成として、歌、リズム、民舞など、すばらしい姿を見せてくれる感動の2時間です。



12月
お店屋さんごっこ
子どもたちが時間をかけ、工夫をこらして作ったおもちゃやいろいろな品物が並ぶお店屋さんごっこ。レストランや劇場もあり、子どもたちは売り手、買い手のどちらにもなって、大はりきりの一日です。

4月 入園式

在園児の歌で始まり、新入園児の紹介、楽しいゲームとつづき、在園児からの手作りプレゼントが贈られます。緊張したなかにも明るい雰囲気の入園式です。

5月 もち(よもぎもち)つき大会



春、子どもたちと保母は、春の匂いを探しによもぎ探りにいきます。向原や城北公園などへの散歩の途中でも探ってきます。そして、そのよもぎを入れてもちつき大会を行います。子どもたちが毎日、元気に遊べるようにと、願いをこめて。

園外保育(遠足)は、0歳児を除いて毎月行っています。1、2歳児もバスなどを利用して光が丘公園や浮間公園に行きます。3歳児以上のクラスは飯能や寄居などの山登りにも挑戦します(裏面参照)。



11月 園外保育

夏、十分に水遊びを楽しんだ子どもたちは、秋になると運動会に向けて大きな目標をもちます。日々、保育が充実してくるときです。一番大きい5歳児のクラスは組別年、竹馬に取り組みます。足に豆をつくり、血をにじませながらも一段ずつ節を高くしていき、姿は見事なものです。そして、4歳児は戸板のぼり、3歳児ははしご渡り、目標を見守りながら取り組む子どもたちの姿に、親も保育者も「ガッパレ」の声援を送ります。もちろん、2歳児も1歳児も0歳児も、それぞれ一杯力を出してがんばります。子ども、親、保育者が一体となった運動会は、子どもたちの力をぐんと伸ばし、冬に向かっての活動に励みと力を与えてくれます。



10月 運動会 プール遊び



陽光保育園では0歳児から水遊びをします。屋上のプールには7月前から入りはじめ、7月末〜8月末は公園のジャブ池に行つて思いっきり遊び、泳ぎます。だから、9月にはみんなカッパになっていきます。陽光の子はみんな水が大好きです。

親子でいっしょにあそびましょう

リズム、うた、砂あそび、散歩、赤ちゃん体操など

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に、月1回、「親子でいっしょにあそびましょう」の催しを行っています。同時に、育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

[対象] 0歳児〜5歳児
[場所] 陽光保育園
[時間] 午前9時〜11時

●1998年度の予定

5月12日(火) 6月3日(水) 7月9日(木)
9月9日(水) 10月20日(火) 11月18日(水) 12月11日(金)
1月12日(火) 2月12日(金) 3月10日(水)

●参加希望の方は事前にご連絡ください。☎3956-1068



【共育講座】子どもの読書・読み聞かせ
講演に納得、子どもたちの歌に感動!
98年2月7日
第一部は、教師生活の中で読書教育に取り組んでこられた代田昇さんの講演。その講演のなかでとくに強調されていたのは、今の教育は先に文字教育があるということ。本来子どもは、いっぱい想像力を働かせ、それを言葉に表現していくものであり、そのことを土台として文字教育が行われるべきなのに、今はそうではない。だから、自分な想像して読みこなすという真の読書ができず、それが今の読書離れにつながっているのではないかと。子どもは、言葉で想像する訓練をすることがとても大事だということでした。
第二部の絵本『あんなるぬゆんた』のイラストと子どもたちの合唱はとも感動的でした。あるお母さんの感想に「子どもたちがすすくよかった。体じゅうで歌っていて……。初めて『あんなるぬゆんた』の歌を聴いたが、子どもたちの姿に感動した」とありましたが、参加者のほとんどが、同じような感想をいだいたのではないのでしょうか。
参加者は大人100人、子ども50人、計150人でした。

◎平沢静子さんを偲ぶ会のご案内

昨年春(四月一四日)の平沢静子さんの急逝から一年を迎えようとしています。陽光保育園の創設者、平沢静子さんの業績は、皆様一人一人の心の中に大きく残されていることと思ひます。
この春、ささやかに、感謝の意をこめて、「平沢静子さんを偲ぶ会」を企画しました。ご多忙とは存じますが、ぜひ皆様お誘いあわせのうえご参加くださいますようお願いいたします。ご参加ご希望の方は、四月一〇日ごろまでにご連絡いただけると幸いです。

●ひまわり募金ありがとうございました●

(1997・7・1〜98・3・15 順不同)

- | | | | | | |
|------|------|---------|------|------|-------|
| 辻高明 | 牧野玲子 | 我妻典子 | 坂本道子 | 仲野 研 | 西村あさ子 |
| 杉坂博志 | 蓮田光男 | 武内后代 | 中川 守 | 菅井政代 | 桑本のり子 |
| 杉坂吉助 | 氏家正憲 | 東福啓治 | 田中英子 | 中山由子 | 高久ますみ |
| 黒田浩子 | 田島義久 | 阿部和子 | 霜田浩明 | 星野 健 | 竹前啓八郎 |
| 佐藤嘉一 | 吉永和男 | 原 芳子 | 小内康寛 | 伊藤正美 | 康子 |
| 福山成子 | 根岸 栄 | 追川会計事務所 | 山桑会 | 職員有志 | |

PART 2 親子で出かけよう！

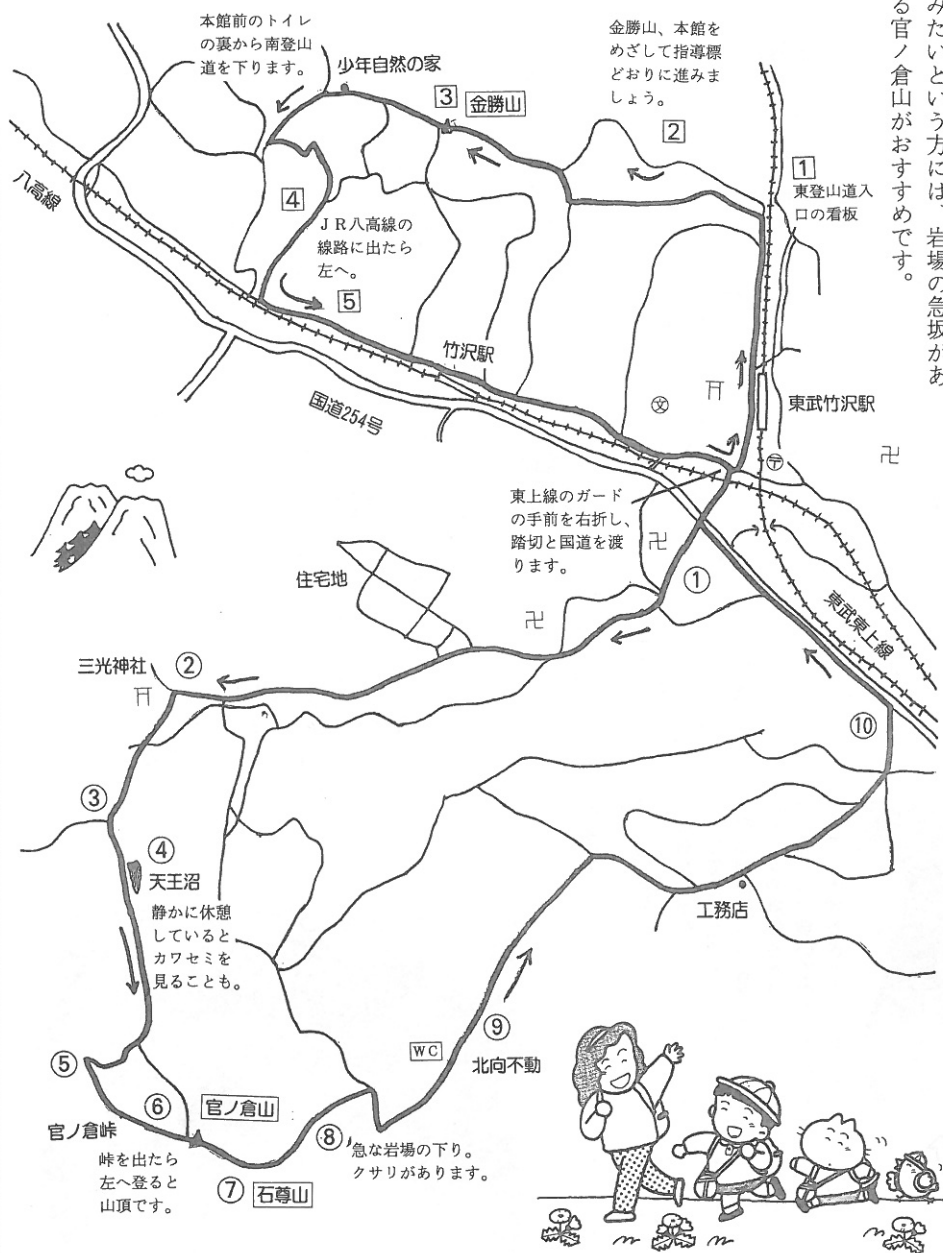
近くの山歩き編

★金勝山・官ノ倉山コース

春、親子で山歩きしませんか

木々が新しい芽を出し、さまざまな花が咲きはじめる季節、親子で山歩きというのもいいですね。この時期のすばらしい自然を満喫できるにちがいないと思います。そこで、今回ご紹介するのは、陽光保育園の遠足で子どもたちが登っている「金勝山」と「官ノ倉山」のコースです。どちらもとても眺めのよい山です。

最寄り駅は、いずれも東武東上線の東武竹沢駅。山歩きは初めてという方には金勝山、ちょっと難所に挑戦してみたいという方には、岩場の急坂がある官ノ倉山がおすすめです。



●金勝山

山全体が埼玉県立小川少年自然の家になっています。

- 1 駅から出たら、看板に指示されているとおりに進み、東登山入口から山道に入ります。
- 2 上り坂がつづきます。階段になっています。
- 3 山頂。山道入口から30分くらいで着きます。眺めがよく、官ノ倉山や少年の家本館(ドーム型の白い建物)も見えます。ここでお弁当を食べ、下り道へ。
- 4 尾根を歩いて少年の家本館に寄ってもいいし、寄らずに階段を下り、山道を楽しみながら帰路につくのもいい。
- 5 JR八高線にぶつかったら左へ折れ、線路を歩いて東武竹沢駅へ。

●官ノ倉山

1 駅を出たら、JR八高線の踏切と国道254号を渡り、静かな里の道をしばらく歩きます。

- 2 田畑の中を作物や野の花を眺めながら歩いていき、三光神社を目印に左に曲がります。
- 3 少し歩いた先に看板(指導標)があります。これを目安にして天王沼へ。
- 4 天王沼の向こうに官ノ倉山が見えます。上りは細い一本道。頂上からはかなりきつい上り坂です。疲れたら少し休んで、またがんばりましょう。
- 5 峠を越えたら頂上ですが、もう少し歩いて「石尊山」へ行きましょう。
- 6 石尊山は展望抜群。三六〇度見渡せるところでひと休み。お弁当もおいしい。
- 7 下りは急な岩場で、鎖もあります。慎重にゆっくり下りましょう。
- 8 沢の横を歩いて北向不動へ。沢ガニに出会ったらラッキー!
- 9 里の道をゆっくり歩き、国道に出たら左折し、国道を歩いて駅に向かいます。

●急 募

2 歳児
4 歳児・5 歳児
1 名
2 名

3 歳児、西山高取へ



一月二〇日、3歳児クラスのとんぼ組は西山高取に挑戦しました。保育園から一時間四〇分、越生の駅に到着し、いよいよ出発です。

山道に入るまで、五分くらい歩きます。子どもたちは「どの山に登るの?」「いちごあるかな?」など、おしゃべりしています(いちごがなっていることを事前に知らせてあったので)。

山道の入口で、保母が「よし、ここからがみんなが登る西山高取だよ!」と、がんばりのポーズをとると、ほとんどの子どもがジャンパーを脱ぎ、エイエイオー! のかけ声も勇ましく、いざ登山。このとき、子どもたちの気持ちはみんな山に向かっていきます。

どんどん、くねくね、山道を登っていきながら、先頭のほうの上を行く子は下の子を振り返り、下のほうの子は上を進む子を手をのりたりして楽しんでいきます。くねくね道をゾロゾロ登っているのを振り返って見た男の子が「ねえ、ねずみの列車だよ!」。絵本にある「ねずみの列車」を思い出したのです。みんな「ほんとうだ!」と共感。

登りはじめて三〇分くらいたつと、「まだ上あるの?」とか「どこまで歩くの?」「疲れたよ」といった子どもの声が聞こえてきました。そのとき、

希望の光が! 山中にいちごがびっしりと実っていたのです。どの子もみんな大喜びで、「いちごー、ほら、いちご!」と大騒ぎ。「まだ?」「疲れた」なんて言葉はどこかに飛んでいってしまいました。

保母が毒味をしていると、「ポクも」「わたしも」と子どもたちも自分で採ってはパクパク。「あーい」「おいし」「足を止めてはいちごに夢中になる子どもたち。しかし、それからが大変でした。いちご狩りに来たときと勘違いしてしまっただかのように、いちごを追いかけあまり、子どもたちの足はのろのろになってしまったのです。保母は、なるべく上のほうのいちごを指して、「もっと上にあるかな?」なんて必死に声をかけ、一時間ほどかけてやっと頂上に着きました。

そこでさっそくお弁当を食べ、あとは下りです。下りはじめは急坂で、木の根っこがポコポコ出ています。ここ

が一番の難所で、子どもも一人一人の性格や持っている力がよく出ます。タッタカ下りていく子、じつくりと下りる子、恐る恐るひと足ずつ下りる子とさまざまですが、どの子もみんながんばりました。

そこを過ぎると、あとはラクラクの下り坂です。少し行ったところの見晴らしのよい場所で、やまびこ大会が始まりました。「ヤッホー」と保母が声を出していると、子どもたちも「ヤッホー」と始めました。全員で声を合わせ、気持ちに合わせて「ヤッホー」とやると、子どもたちにもわかるくらいはやまびこが返って来ました。みんな大拍手です。楽しくて、二〇回くらいやりましたが、もっとやりたかったほど。みんなが団結して声を合わせ、共感する姿は感動的でした。

あとはさつとラクな道です。ちよちよになったり飛行機になったりして、みんなでダーッと走り下りました。

お父さんの出番です!



我が家には、長男の棟亮と長女の侑里がいます。二人ともかなりの頑固者で、言い含めるのは至難の業です。あまりに聞かないので、怖がらせてはいけなそうと思いつつも、時々おばけとか鬼に登場してもらい、助けを借りています。とくに下の侑里は、大好きな絵本「寝ない子誰?」に出てくる「寝ない子はおばけになって飛んでいけ!」のフレーズを怖がっているの、私がそれを口にする、かなり聞きわけがよくなります。こんなことで喜んでくれるのですが、新米パパにとってはまだまだ自己満足できるひとときです。

話は変わりますが、我が家の子どもたちは二人ともママっ子です。何かあったときや病気になるなどときなどはもちろん、普段でも、食事やお風呂、寝るときなど、パパから誘っても「ママといっしょに!」の返事が返ってきます。その理由は、ママに言わせると「パパは怒りすぎ」だからだそうです。そうかもしれないと反省する反面、ママのほうからパパより子どもたちと一緒にいる時間が長いし、保育園にお迎えにきてくれるママのほうを好きになりやすいのではと考えたりします。そんなことを思いながらも、パパの気持ちは「子どもたちよ、平凡でいいから素直に育ってくれ!」です。最近の中学生などの事件を耳にすると、身につきまされるというか、数年後には我が家の子どもたちも中学生になるので、考えさせられます。私としては、何より子どもたちとのスキンシップを大切にしたいと考えています。

子どもたちには私と同じ体験をたくさんしてほしいと思います。同じ体験をすることで共通の喜びや苦しみを話し合えるようになると思うからです。まだまだ子どもたちには手だまにとられているのが現状ですが、私自身、尊敬されるパパになるために、子どもたちと一緒に、いつまでも成長していきたいと思っています。がんばります。

3 歳児・棟亮、1 歳児・侑里の父 初山 敏則



パパの成長日記